

兵庫医科大学 研究実施のお知らせ

本学で実施しております以下の研究についてお知らせ致します。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

研究課題名	緑内障手術において経口第 3 世代セファロスポリン系抗菌薬投与の有無が術後眼内炎発症率に与える影響について [倫理審査受付番号：第 5117 号]
研究責任者氏名	木村健
研究機関長名	兵庫医科大学長 鈴木 敬一郎
研究期間	研究実施許可日 2025 年 8 月 21 日～2027 年 3 月 31 日
研究の対象	以下に該当する患者さんを研究対象とします。
	診療科名等：眼科(緑内障に対して流出路再建術を受けられた患者さん)
	受診日：西暦 2024 年 1 月 1 日～ 2025 年 6 月 30 日
研究に用いる 試料・情報の種類	<input type="checkbox"/> 試料等 <input checked="" type="checkbox"/> カルテ情報 <input type="checkbox"/> アンケート <input type="checkbox"/> その他 ( )
	取得の方法： <input checked="" type="checkbox"/> 診療の過程で取得 <input type="checkbox"/> その他 ( )
研究目的・意義	近年、抗菌薬使用に対する耐性菌の出現や医療費増大が問題になっています。そこで、厚生労働省は 2016 年に薬剤耐性アクションプラン(以下、アクションプラン)といった対策を宣言しました。アクションプランには、抗菌薬適正使用の必要性が掲げられており、その中で、経口第 3 セファロスポリン系という経口抗菌薬の使用頻度を下げることが目標に掲げられています。アクションプランが宣言されてから、様々な医療機関で抗菌薬の見直しが始まっています。兵庫医科大学病院の眼科でも白内障及び緑内障手術を施行した患者さんに手術後感染症である術後眼内炎の予防目的で、手術翌日より経口第 3 セファロスポリン系抗菌薬であるセフカペンピボキシル錠を服用していました。しかし、2023 年 9 月から白内障手術、2024 年 9 月から緑内障手術のうち流出路再建術を施行した後のセフカペンピボキシル錠は中止しました。白内障手術後で抗菌薬を削除した場合、術後眼内炎発症率は削除前と後で差はなかったというデータは多いですが、緑内障手術後のデータはまだ少ないというのが現状です。そこで、本研究では流出路再建術施行後のセフカペンピボキシル錠の削除前と後で術後眼内炎の発症率に差があるのかを調べます。これらを

	<p>明らかにすることで、さらなる予防的抗菌薬の見直しや眼科手術における手術後抗菌薬削除を検討している施設での適正使用の一助に貢献できると考えています。</p>
<p>研究の方法</p>	<p>2024年1月1日から2025年6月30日で、流出路再建術後を受けられた患者さんのうち、セフカペンピボキシル錠を服用していた患者さんと服用していなかった患者さんに分けて、手術後眼内炎発生率の差を調査します。また、術後眼内炎の発生率に影響を与えられとされる要因【体重、年齢、性別、白内障同時手術の有無、手術前1ヶ月以内の化学療法歴、入院時での併用薬使用(ステロイド・免疫抑制剤・糖尿病薬)】を電子カルテより収集し、それぞれでセフカペンピボキシル錠の有無が術後眼内炎に与える影響を調査します。</p>
<p>個人情報の取扱い</p>	<p>収集したデータは、誰のデータか分からないように加工した上で、統計的処理を行います。国が定めた「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。</p>
<p>本研究に関する連絡先</p>	<p>診療科名等：薬剤部          担当者氏名：松田直紀          [電話] (平日8時30分～16時30分) 0798-45-6189          ※兵庫医科大学病院薬剤部に所属する研究責任者、分担者が相談に応じます。</p>